

プロフィール

英国ブラッドフォード大学（紛争解決学）で修士号取得後、米国 NGO カーター・センター、コンゴ民主共和国日本大使館（草の根委嘱員）、NGO のハイチ駐在員を経て平和構築人材育成 事業に参加。海外実務研修では、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）コンゴ（民）・バドリテ事務所で Associate Peacebuilding Officer として勤務。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

本事業に参加する前にもコンゴ（民）やハイチで開発・人道支援の現場経験が多少ありましたが、学生時代から興味を持っていた紛争予防やコミュニティレベルでの平和構築に直接関わる経験をもっと積みたいと思っていました。本事業の海外実務研修で国連ボランティア（UNV）として平和構築関連の現場で働く機会を得られることに、とても魅力を感じました。

2. 国内研修に参加した感想は？

国内研修中は、世界で活躍する様々な講師の方々から多くのことを学びました。各分野の講義内容のみならず、キャリア構築、国連機関での仕事の実情（やりがい・ジレンマ・失敗談など）、そしてリーダーシップやワーク・ライフ・バランスなど、講師の方々の豊富な職務経験・人生経験に基づいたいろいろなお話が聞けたのはとても貴重でした。また、同じ分野を志す研修員と出会えたこと、そして研修中切磋琢磨できたことは、大きな刺激になりました。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

UNHCR コンゴ（民）・バドリテ事務所では、同国北部の南北ウバンギ州に避難している中央アフリカ共和国難民（約 10 万人）を支援しています。私の業務内容は主に 3 つありました。

(1) 南北ウバンギ州にある 4 か所の難民キャンプにおける平和構築プロジェクトのフォロー・アップ

中央アフリカ共和国難民とホスト・コミュニティ（コンゴ（民）人）の相互理解、平和的な共存を目的とした平和構築プロジェクトを担当しました。プロジェクト内容は、難民キャンプ内外での啓発活動や、対話集会、啓発ラジオ番組の作成、コミュニティ・リーダーへの紛争解決トレーニング、そして相互理解を深めるためのスポーツ・文化交流などがありました。また、「共同委員会」と呼ばれる、地域に根差した紛争解決メカニズム（難民リーダーとコンゴ（民）人住民リーダーによって構成される委員会）の設立や能力強化にも取り組みました。共同委員会は、難民を受け入れたことにより発生した現地の土地問題、森林伐採、水源使用問題などの予防・仲裁・解決を担っています。



難民と現地住民リーダーたちによる対話集会の様子。
難民キャンプ周辺の森林伐採問題などを話し合う。



村々を回っての、住民への啓発活動の様子

(2) ゾンゴ/モレ地区のムスリム系難民の若者とキリスト教系難民の若者の融和プロジェクト

中央アフリカ共和国での紛争を受け、ムスリム系難民とキリスト教系難民の間の相互不信は大きな課題となっています。両者の相互理解、信頼醸成を目的として、若者を対象にした融和プロジェクトを実施しました。



2つのコミュニティの若者が一緒に平和教育



プロジェクト内容は若者自身が話し合いにより決定

(3) コミュニティ・モビライゼーション

特に若者と女性の参加を促すための啓発活動、及び若者や女性を対象とした活動の企画など行いました。



難民キャンプには女性のリーダーが非常に少なく、
女性の参加をどのように実現できるかを話し合う



難民と現地住民のサッカー交流
女子サッカーチーム初の親善試合の様子

また、上記の業務に加えて、国際ボランティアデーには、難民キャンプ内で清掃イベントを企画したほか、日本の企業であるパナソニック社と「ソーラー・ランタン配布プロジェクト」を実施し、当地の難民キャンプへ約 500 台のソーラー・ランタンを寄贈頂きました。



パナソニック社寄贈によるソーラー・ランタンを現地の診療所に配布する様子（充電の仕方を説明中）



国際ボランティアデー（12月5日）に行ったインケ難民キャンプ清掃キャンペーン

4. 海外実務研修での感想は？一番印象に残っていることは？

バドリテ事務所及び出張地での日々はとにかく濃く、充実したものでした。僻地での生活は、文字通り、汗と涙と笑いの連続でした。研修を通して、僻地での生活の心得、時に怒れる難民とのコミュニケーション、進捗が芳しくないトラブル満載のプロジェクトの管理など、現場ならではの学びが多くありました。また、数々の失敗を通して、難民や現地の人々から謙虚に学ぶ重要さも、学ぶことができました。印象に残っていることは一つには絞れませんが、プロジェクトを通して、異なるコミュニティの人々が自分たちの力で一緒に問題の解決策を話し合っている姿を各地で見るたび、とても達成感を感じました。

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

2016年6月から、Junior Professional Officer (JPO) として国連人道問題調整事務所 (OCHA) チャド・ンジャメナ事務所に派遣予定です。今後も、特にアフリカ・サヘル地域の平和構築・紛争予防・人道支援分野で働きたいと思っています。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

私にとって本事業は、平和構築や人道支援の分野でキャリアを築いていくための第一歩となりました。事業へ参加する理由は人によって異なると思いますが、国内研修・海外実務研修には、将来につながるチャンスや出会いがたくさんあるので、自分が志す分野で、自分の可能性を広げることに大きく繋がると 생각합니다。